# 学会賞受賞の紹介

## 2022年度フードシステム学会学術賞

**受賞タイトル：『食料品アクセス問題と食料消費，健康・栄養』筑波書房（2020年12月）**
**受賞者：高橋克也（食料領域　総括上席研究官）**

高橋克也が編著『食料品アクセス問題と食料消費，健康・栄養』筑波書房（2020年12月刊）で日本フードシステム学会学術賞を受賞しました。本書は、食料品アクセス問題が単なる買い物にとどまらず、我が国の高齢化に伴う食料消費、供給面での構造的変化に起因した重要な社会問題であることを多面的な視点からあきらかにしました。同時に、本書は所内外の７名の研究者による12章からなりますが、そのほとんどが『フードシステム研究』はじめ国内外の学会誌に掲載された論文から構成されていて、これらはいずれも質の高いものです。

著者らが食料品アクセス問題を定義してから10年あまり経ちますが、食料品アクセス問題が健康とともにコミュニティ存続にも関わる地域問題の側面が強まるなど、問題の複雑性は更に増しているといえます。なかでも、今後ますます進展する食の外部化の影響は極めて大きく、店舗に依存しない最終的な「食」へのアクセス条件について再検討する必要があります。以上、こうした内容を踏まえて、フードシステム研究の発展に寄与するところ顕著として、2022年６月18日に本書の編著者に学術賞が授与されました。

## 研究所訪問　―岡山県立岡山操山中学校―

令和４年11月９日（水）に、岡山県立岡山操山中学校３年生５名と教員１名が農林水産政策研究所を訪問されました。同中学校では、生徒ひとりひとりが研究テーマをもつ学習プログラム「未来航路プロジェクト」の東京研修旅行において、その分野の研究者と対話する学習を行っています。その中で『農業』に関心をもつ生徒が当研究所に見えました。

当研究所では、研究成果紹介を國井主任研究官より「農村をどうやって測るんだろう」と題し、地域資源利用による環境と経済への影響や、観光地としての農村等の課題解決のため様々な方法で農村を「測って」「知る」ことが必要であることを説明しました。次にディスカッションを行い、事前にいただいた質問の中から、「六次産業化」について、携わっていた高橋次長から説明しました。植村企画広報室長からは、現在当研究所で行っているプロジェクトを説明しています。

國井主任研究官による説明

中学生からは、“自分が研究してない分野の農業についても考えることができ、様々な視点から物事を見る重要性がわかった。六次産業化については、マーケティングやどうやって消費者に知ってもらうかが重要ということがわかり参考になった。”等の感想をいただきました。

研究者としても、普段接することのない中学生の意見を伺うことができ、刺激をうけ有意義な時間となりました。ご来所ありがとうございました。